

地域医療における医療連携

東京都医師会長

野中 博

わが国は 2025 年に向かって今まで経験した事のない超高齢社会を迎える。その社会を支える為には社会保障制度が重要であるが、なかでも地域における医療・介護・福祉が重要である。地域住民の生命や健康を支えるためには、まずは救急救命医療や専門医療の充実が不可欠であるが、さらに病状が安定後の医療の充実も同様に不可欠である。すなわち医療の目的は、病気を治すことだけではなく、地域のすべての人々が尊厳を持って、住み慣れた地域で最愛の家族と地域の人々に囲まれながら、安心していつまでも暮らすことを、医学を通じて支援することである。住民が住み慣れた地域で安心して生活を継続するには、「かかりつけ医」をはじめとする様々な医療や介護の従事者の多職種協働が大切な役割を果たす。すなわち病気を治すだけでなく生活を支える機能も必要である。この多職種が協働する地域医療について述べる。